

令和6年度 医療従事者の負担軽減及び処遇の改善に資する計画

1. 勤務医の負担の軽減及び処遇の改善に資する計画

医療従事者負担軽減検討委員会

ア. 医師と医療関係職種、医療関係職種と事務職員等における役割分担

項目	前年度までの状況	前年度までの達成状況等	今年度の取組計画・課題	取組みの評価 (R7年3月)
①初診時の予診の実施	・ブロック毎に医師事務作業補助者を配置し対応しているが、増員及び各ブロックへの配置の見直しを行い、業務内容を精査することで体制の充実を図っていく。	達成	・取組みの継続。	各ブロックへの医師事務作業補助者の配置体制について、業務実態を踏まえた見直しと適正な人員配置を行い、体制の最適化を図った。また、業務範囲の精査を進めたことで、補助業務の均質化と効率化が進み、診療支援の質的向上に一定の成果が見られた。
②静脈採血等の実施	・臨床検査技師の増員及び採血を実施する体制作りを検討する。	未達	・取組みの継続。	採血業務を含む人員の確保には至らなかったものの、検査科内における業務の属人化を見直し、複数部門に対応できる体制の必要性が共有されるなど、内部体制の在り方を見直す契機となった。
③入院の説明の実施	・クリニカルパス使用患者は主に入退院支援看護師が入院説明を行い、それ以外に関しては病棟クランクによる入院説明の取組みを継続。	達成	・取組みの継続。	病棟クランクを各病棟に配置し、クリニカルパス非該当患者への入院説明を担う体制を整備。これにより、入退院支援看護師との役割分担が明確化され、入院説明の分散化が図られたことで、複数患者対応時の負荷軽減に寄与した。
④検査手順の説明の実施	・5年度は人員が減となり体制を整えることが難しいと思われるが、入退院支援室及び医師事務作業補助者による検査説明について引き続き検討を行う。	未達	・取組みの継続	医師事務作業補助者による検査説明の実施については、人的体制の制約等もあり、今年度内での体制構築には至らなかった。今後も引き続き、役割分担の明確化と業務の適正配置を念頭に、現場の運用状況を踏まえた検討が求められる。
⑤薬の説明や服薬の指導	・薬剤師が副作用を把握し、服薬指導などの薬学的管理を行い処方提案していく。 ・薬剤師が持参薬の鑑別や服薬状況を確認した上で、服薬計画を提案していく。 ・各病棟に担当薬剤師を配置し、病棟薬剤業務として、医師・看護師と連携を図り医薬品の適正使用に努める。 ・入退院支援室において服薬状況の把握、中止薬の確認および説明を実施する。	達成	・取組みの継続	病棟ごとの担当薬剤師配置や、入退院支援室との連携を継続的に実施し、服薬状況の把握、副作用の確認、持参薬の鑑別を通じた処方提案など、薬学的管理体制が着実に機能している。医師・看護師との連携も良好であり、医薬品の適正使用に向けた取組みは概ね計画どおり達成された。

(2) 医師の勤務体制等にかかる取組 (A207-2 医師事務作業補助体制加算施設基準1. 通則1. カ①～⑥までのうち、2項目以上を実施)

項目	前年度までの状況	前年度までの達成状況等	今年度の取組計画・課題	取組みの評価 (R7年3月)
1. 勤務計画上、連続当直を行わない勤務体制の実施	・当直表作成前の希望調査の実施 ・適切な労務管理の実施 ・オンコールを含め連続当直が行われていないかチェック ・応援医師による救急外来日当直の診療実施 ・医師確保につながる取組の強化 ・当直表、勤怠管理システムで勤務状況を確認し、必要に応じ改善を図る。	達成	・取組の継続	当直希望調査の継続実施、連続当直の有無の確認、応援医師の確保による当直体制の安定化、勤怠システムを活用した勤務状況の把握など、各種取組は概ね計画どおり遂行された。適切な労務管理と勤務環境の維持に向けた体制についても一定の取組が継続されている。
2. 予定手術前日の当直や夜勤に対する配慮	・当直表作成前の希望調査の実施 ・適切な労務管理の実施 ・医師確保につながる取組の強化 ・予定手術前日の当直の有無や問題がないか確認する。	達成	・取組の継続	当直希望調査や手術前日の勤務状況の確認、適切な労務管理の徹底、医師確保に向けた取組等を継続的に実施し、勤務体制の適正化に努めた。全体として、勤務負担の平準化と安全な診療体制の維持に向けた対応は、おおむね計画に沿って進められた。
3. 当直翌日の業務内容に対する配慮	・当直翌日の業務内容に問題がないか検討 ・当直表、勤怠管理システムで勤務状況を確認し、必要に応じて改善を図る。	達成	・取組の継続	当直翌日の業務負担の確認をはじめ、当直表や勤怠管理システムを活用しながら勤務状況を継続的に把握し、必要に応じた見直しを行った。全体としては計画に沿った対応が概ね行われた。

令和6年度 看護職員の負担の軽減及び処遇の改善に資する計画

項目		前年度までの状況	前年度までの達成状況等	今年度の取組計画・課題	取組みの評価 (R7年3月)
ア 業務量の調整	時間外労働が発生しないような業務量の調整	<ul style="list-style-type: none"> <li>記録に関するツールの活用を継続できた</li> <li>バイタル連携システムを導入した</li> <li>緊急以外の検査、手術予定の組み立て協力依頼までには至らず</li> </ul>	達成	<ul style="list-style-type: none"> <li>記録のみなおし、テンプレート活用により効率的な記録につなげる</li> <li>バイタル連携システムの更なる有効活用</li> <li>外来看護師による病棟検査介助への応援</li> </ul>	各部署の現状を伝えあう事で、部署間応援体制が構築されてきた。
イ 看護職員と多職種との業務分担	薬剤師	<ul style="list-style-type: none"> <li>注射薬の期限管理、持参薬確認業務は薬剤師が行った</li> <li>看護師管理の配薬準備に時間を要している</li> <li>内服自己管理患者へのチェック体制を始めた</li> </ul>	未達	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護師管理の配薬準備への協力</li> <li>退院時の処方説明</li> <li>内服自己管理患者へのチェック体制の強化</li> </ul>	自己管理に関するチェック体制を整えるためにマニュアルの見直しを行った。
	リハビリ職種	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベッドサイドリハ実施により患者移送業務の軽減になった</li> <li>リハビリ前に必要時適宜喀痰吸引を行っている</li> </ul>	達成	<ul style="list-style-type: none"> <li>取り組みの継続</li> </ul>	計画達成できている
	臨床検査技師	<ul style="list-style-type: none"> <li>処置室の採血業務応援については、人員不足により取組めていない</li> </ul>	未達	<ul style="list-style-type: none"> <li>検査科増員が見込まれれば、採血業務の実施について応援を依頼する</li> </ul>	増員ならず、業務移譲が進まない。
	臨床工学技士	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療機器の院内巡回による管理、手術室内の機器点検の実施を行っている</li> <li>透析業務への応援派遣を行っている</li> </ul>	達成	<ul style="list-style-type: none"> <li>休日の透析業務担当を依頼することで、平日日勤看護師を確保する</li> </ul>	透析管理に応援を得ることが出来た。
	その他(職種クラーク)	<ul style="list-style-type: none"> <li>病棟クラークが3名配置になった</li> <li>病棟クラークの業務内容を見直し、業務移譲繋げた</li> </ul>	達成	<ul style="list-style-type: none"> <li>病棟クラーク業務の定期的な見直しを行い、全部署で業務の統一を図る</li> </ul>	会議で業務移譲に繋げることが出来た。
ウ 看護補助者の配置	看護補助者の夜間配置	<ul style="list-style-type: none"> <li>包括ケア病棟で準夜勤務に一人配置している</li> <li>看護補助者の遅番、早番の活用を行った</li> </ul>	達成	<ul style="list-style-type: none"> <li>取り組み継続</li> </ul>	必要な時間帯に勤務時間を変更した。
オ 多様な勤務形態の導入	多様な勤務形態の導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>希望する勤務形態に対応した</li> </ul>	達成	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様なニーズに対応すべく細かな勤務形態を導入する</li> </ul>	計画達成できた。
カ 妊娠・子育て中、介護中の看護職員に対する配慮	夜勤の減免制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校就学の始期に達するまで希望に対応するが希望者がいなかった</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>取り組み継続</li> </ul>	希望に対して対応する。
	休日勤務の制限制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>本人の請求により取得可能としている</li> </ul>	達成	<ul style="list-style-type: none"> <li>取り組み継続</li> </ul>	希望に対して対応する。
	半日・時間単位休暇制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>半日単位とした年次有給休暇制度を活用し、多様なニーズに対応できた</li> </ul>	未達	<ul style="list-style-type: none"> <li>取り組み継続</li> <li>時間単位での有給取得ができるよう要検討</li> </ul>	取得日数に個人差があった。
	所定労働時間の短縮	<ul style="list-style-type: none"> <li>育児時間制度(1日最大で1時間)の短縮で多様なニーズに対応できた</li> </ul>	達成	<ul style="list-style-type: none"> <li>取り組み継続</li> </ul>	計画達成できた。
	他部署への配置転換	<ul style="list-style-type: none"> <li>本人からの要望に配置転換を考慮した</li> </ul>	達成	<ul style="list-style-type: none"> <li>取り組み継続</li> </ul>	ほぼ計画達成できた。
キ 夜勤負担の軽減	月の夜勤回数の上限定	<ul style="list-style-type: none"> <li>新人個人の状態に合わせて夜勤導入をおこなった</li> <li>回数10回になる月があった</li> </ul>	未達	<ul style="list-style-type: none"> <li>新人看護師の夜勤導入を7月頃より始め、9～10月までに夜勤のひとり立ちを目指す</li> <li>ひと月8～9回を目途にしているが上限10回までとしたい</li> </ul>	病棟の適正配置ができず、夜勤回数が10回になった。